

木のすまい新聞

「シリーズあれから1年」

瓦の島にあって、板金屋根を用いて、羽衣を伏せるように、おらかな風土を表現しようと思った。

お父さんは、小さな川沿いに敷地を求めた。川の向こうには、緑にまもられた堤防。少し離れて民家が点在する。その向こうの山の麓には、お母さんが生まれ育った集落が残る。

この島に高い山は無く、そこにあるのは、営為という村々に住み暮らす人の舞台を、優しく見守る背景のような山波。設計に際し、そんな故郷の連なりの中に、この家もありたいと思った。

この家を訪れる人は、斜に屋根を見上げて、その緩さと薄さに気付くだろう。

建築や土木などの人為が、地形や風景を遮るために使われる世界。そうではなくて、建築は透けるようにつくり、地域固有の素材をまよわせる。

土を掘り、建築する行為の禊の意味も込めて、掘った土を庭に築山にして、元の地形に戻す。顔を覗かせた玉石は、創意と工夫で庭を彩る一部に変わる。

そこに、自生の在来種の苗木や樹々を植える。少なくとも硬

木のすまい仕様の家 「淡路島の平屋」

い舗装で蓋をすることなく、土を見せるに留めることで、緑が戻ってくる。裏山の植生が、町に踊り出す。

かつての里山集落のように、人の営為が、地形や風景の一部になるような、風土と暮らす木の家になるようにと願った。

あれから1年。春夏秋冬、島の四季を過ごした住まい手からは、これと言った手直しは聞いていない。便りの無いのは良い便り、と言ったところかと安堵。

育ち盛りの子供達と、少し足の悪い老猫。四人と一匹の暮らしが、子供達の原風景になると嬉しい。



「設計・施工」

ひょうご木のすまい協議会 正会員

株式会社 大塚工務店

住宅ローンも50年まで延長に

9月7日の日本経済新聞に「50年住宅ローン」の見出しで記事が載っていました。ニュース等でも見られた方もおられると思います。

もちろん対象は50年払い込みがでさる若い世代が中心であり、広島銀行の場合では完済年齢が81歳以下が条件になっているようです。実際に81歳まで払い続ける方は少ないとは思いますが、ただ毎月の返済額を抑えたい若い方には使えるローンかとは思いますが、ただ、金利はその分払い続けなといけないので、トータルの総返済額は当たり前ですがアップします。

試算では、3000万を金利1%で50年借りた場合、期間35年で借りたとき比べ月々の返済は2万円ほど少なく(約85000円↓約64000円)なりますが、総返済額は逆に約7%ほど増え、約3800万円になります。

期間が延びることで金融機関も貸し倒れのリスクが増え、与信管理も難しくなるので貸す側もメリットばかりでは無いようですが、借りる(使う)側も慎重に、しかし上手く活用できれば使える商品ではないかと考えます。

ひょうご木のすまい協議会

会長 三渡 眞介

木の家

ひょうご木のすまい協議会

Vol. 99

November
December
2023

地域材利活用
建築デザイン
コンテスト in 兵庫
第4回

主催/ひょうご木のすまい協議会 共催/ひょうご木づくり王国学校
協賛/ひょうご木の匠の会・兵庫県木材協同組合連合会
後援/兵庫県・兵庫県木材業協同組合連合会・神戸新聞社

地域材利活用コンテストの
・公開審査のご視聴
・アンバサダーのご応募
はコチラから



詳しくは『地域材利活用建築デザインコンテスト in 兵庫 運営事務局』までお問い合わせください。TEL:0790-64-0150(月～金 10:00～16:00)

公開審査

2023年11月25日(土) 13:30～16:30

当日下記のQRコードよりご視聴ください。

※事前のお申し込みは必要ありません。
※下記のQRコードは、公開審査前日まで地域材利活用コンテストのHPへアクセスします。

審査員



三澤 文子
(Ms建築設計事務所代表)



神家 昭雄
(神家昭雄建築研究室代表)



吉井 歳晴
(WIZ/
WIZ ARCHITECTS代表)



今津 修平
(株式会社Muff代表)